

10th Anniversary of Friendship-City Relationships

奈良市・揚州市 友好都市提携締結10周年

奈良市と中国 揚州市は、平成22年（2010年）5月23日に友好都市提携を行ってから今年で10周年を迎えました。



友好都市提携に至るまでの経緯

揚州市にある大明寺（だいめいじ）の住職を務めていた鑑真和尚のご縁により、平成22年（2002年）から奈良市と揚州市とは友好的な交流を進めてきました。

平城遷都1300年となる平成22年（2010年）2月に仲川げん奈良市長を団長とする友好代表団が揚州市を訪問し、「友好都市締結の覚書」を交わしました。

そして同年5月23日に、両市は正式に友好都市提携の調印式を行い、経済や文化、観光、人材、スポーツなどの分野で交流することに合意しました。



▶ 覚書に調印する仲川奈良市長（左）と謝（しゃ）揚州市長（右）



▶ 友好都市提携の調印をする仲川奈良市長（左）と張（ちょう）常務副市（右）

日本国奈良市 友好都市盟約宣言 中華人民共和国揚州市

753年、鑑真和尚は不惜身命の覚悟をもって渡日され、伝戒の師としてのみならず、盛唐の先進技術を平城京へ伝えられ、日本文化の発展に大きく寄与された。

そして鑑真和尚の故郷揚州市は、鑑真和尚の出立の地として、また、遣唐使の上陸拠点の一つとして、日中友好交流事業で重要な役割を果たした。

奈良市と揚州市は、偉大なる日中友好の先駆者である鑑真和尚ゆかりの地として、和上の精神に学び、世々代々日中友好を促進する歴史的な責務を有するものである。

両市は、両国を代表する歴史都市であり、8世紀の日中両国の友好的な関係を現代に蘇らせ、相互信頼、平等互恵の原則に基づいて、日中友好を促進するため、様々な交流を通じて両市に共通する課題を解決し、共に発展の道を歩むことを念願し、友好都市盟約を締結することをここに宣言する。

この盟約書は、日本語、中国語の2種類の文字で作成し、2部一式とし、ともに同等の効力を有するものとする。

2010年5月23日

日本国 奈良市

仲川げん

中華人民共和国

張

交流のあゆみ

- 2010 友好提携の覚書に調印する
友好都市盟約宣言・友好都市関係樹立協定を結ぶ
- 2011 揚州市マラソン代表団が来寧する
- 2013 揚州市代表団が世界遺産・文化遺産を視察する
揚州市青少年代表団が奈良市を親善訪問する
- 2015 オペラ鑑真訪日調査団が取材のため来寧する
揚州市教育代表団が教育現場を視察のため市内の
高校を訪問する
- 2016 朱民陽（しゅみんよう）揚州市長一行が来寧する
- 2017 揚州市政治協商会議が来寧し、両市の相互理解と
友好交流の増進を図る
- 2019 揚州市人民政府が来寧し、田原地区にて土地改良
の視察する
- 2020 友好都市提携10周年

鑑真和上の生い立ち ～渡日の決断に至るまで～



◀中国揚州市、大明寺（だいまいじ）の境内にある鑑真記念堂の中に安置されている「鑑真和上坐像」

鑑真和上は、688年中国揚州江陽県に生まれました。14歳で揚州大雲寺（ようしゅうだいうんじ）へ出家、洛陽、長安に遊学し、21歳で弘景師（こうけいし）から具足戒（ぐそくかい）を受けました。揚州大明寺を拠点として戒律を講じ、多くの弟子を育成しました。40代半ばにして唐の中部地域で律僧の第一人者として認められるようになりました。

鑑真和上が55歳のときに、第10次遣唐使と共にと渡航した留学僧栄叡（ようえい）・普照（ふしょう）の懇請に応じて、唐に於ける高僧としてのすべてを捨て、日本に渡ることを決意しました。

当初、栄叡たちは鑑真自身の来日は考えてもみず、弟子を来日させるよう懇願しましたが、日本が遠国であることを理由に、皆がしり込みをする中、鑑真和上自身が渡日することを決断し、多くの弟子たちも従うことになったといわれています。

鑑真和上の渡航年表

年	できごと
742年	栄叡（ようえい）と普照（ふしょう）が大明寺（だいまいじ）に鑑真和上を訪ねて伝律授戒のために渡日を懇請し、鑑真和上が受託する。
743年	故意に事実を偽って告げられ、1次渡航に失敗する。
743年	2次渡航を企てるが、出発直後に遭難する。
744年	栄叡が捕縛され、3次渡航準備段階で挫折する。
744年	渡航のため陸行中、黄巖県禅林寺（こうげんけんぜんりんじ）で官によって阻止され失敗する。
748年	栄叡・普照が揚州崇福寺（ようしゅうそうふくじ）に鑑真を訪れ5度目の渡航を乞う。新河（しんか）より出港し東シナ海で暴風にあって漂流、海南島に漂着する。海南島の地方豪族に支援され、土地土地で寺の復興や、律を講じながら揚州に戻る。 この途次に一番弟子の祥彦（しょうげん）と日本僧の栄叡が没し、鑑真自身も失明する。
753年	10月に遣唐使藤原清河（ふじわらきよのかわ）らが揚州延光寺（ようしゅうえんこうじ）に鑑真を訪れて渡日を懇請する。 11月に蘇州「黄泗浦（こうしほ）」を出港し、沖縄本島を経由して今の南さつま市坊津付近の「秋妻屋浦（あきづまやうら）」に上陸、太宰府を経由して難波から平城京に入る。

揚州市（中華人民共和国）

について



★人口：約 4 5 9 万人

★面積：約 6, 5 9 1 k m²

★土地：中国の江蘇省に
位置する港湾都市

ふうこうめいび

風光明媚な景観を持ち、観光資源にも恵まれていることから、中国を代表する観光都市の1つであります。

唐の時代に日本へ渡り、唐招提寺を建立した鑑真和上の故郷としても知られています。

観光名所

- ・大明寺（だいまいじ）
- ・瘦西湖（そうせいこ）
- ・個園（こえん）
- ・京杭大運河（けいこうだいうんが）

点心

サンティンパオズ

- ・三丁包子

チエンソアンユウガアオ

- ・千層油糕

フェイソエイシアオマアイ

- ・翡翠焼売

グルメ

- ・揚州炒飯
- ・カニ味噌獅子頭

伝統工芸

- ・揚州玉器
- ・揚州漆器

揚州市の観光名所

春



夏



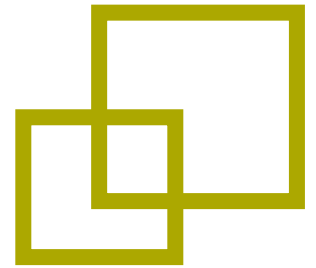
秋



冬



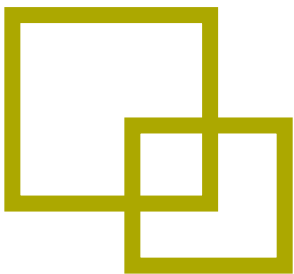
個園
(こえん)



個園で最も特色ある「四季の築山」は、色の異なった石を積み重ねて、春夏秋冬を表しています。春の築山は筍の形をした石が特徴、夏の築山は痩せて涼しげな石が特徴、秋の築山は紅葉のような色をしている石が特徴、冬の築山は積もった雪のように白い石が特徴となっています。

京杭大運河

(けいこうだいうんが)



写真撮影：張卓君

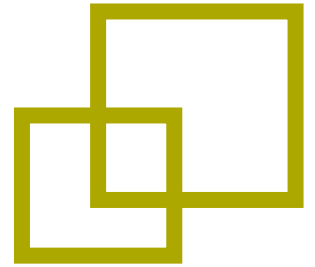
隨の煬帝（ようてい）により整備された北京と杭州を結ぶ全長1794kmの大運河で、世界で最も長い運河です。揚州市内を通る143.3kmは、紀元前486年に呉に滅ぼされた邗（かん）が北の淮水（わいすい）と南の長江を結ぶ形で開削した邗溝（かんこう）を組み入れたものであることから、揚州は大運河の原点と言えます。

揚州市の観光名所



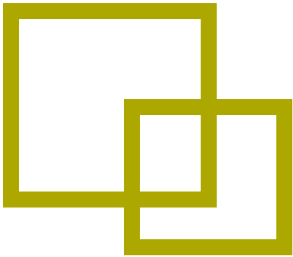
写真撮影：周沢華

大明寺 (だいめいじ)



南朝・宋の孝武帝の大明時代に建設が始まったため、大明寺と呼ばれています。仏堂、文化財、庭園、仏教教育施設等が集積した千年の歴史を持つ仏教寺院で、国家重要文化財指定史跡であり、国家4A級観光地となっています。境内には鑑真記念堂、平山堂（へいざんどう）、栖靈塔（すれいとう）、西園（せいえん）などの名勝があります。

瘦西湖 (そうせいこ)



瘦西湖は、国家クラス風景名所エリアで、南方の優美さと北方の壮大さを融合した独特の美しさを有しています。隋・唐の時代より、観光エリア内では次々に庭園が建築され、清の最盛期まで続きました。「長堤春柳（ちょうていしゅんりゅう）」というしだれ柳の道や、釣魚台（ちょうぎょだい）、五亭橋（ごていきょう）、白塔（はくとう）、二十四橋（にじゅうよんきょう）等に接すると、まるで長編の山水絵巻を見るような感覚になります。

揚州市のグルメ



揚州炒飯



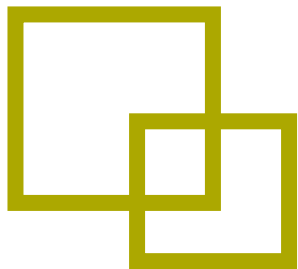
ユエグワオニースイジンファン

揚州炒飯のルーツは、隋代の献立表に「越国食碎金飯」という記述があります。これについては「越国（^{えつこく}浙江）では碎金飯（^{せっこう}金のかけらのような飯）を食べる」という意味で、揚州の^{ダンチャオファン}蛋炒飯（卵チャーハン）の前身といわれています。その後「碎金飯」は揚州に伝わり、改良され副材料も増え、今日のような揚州炒飯になったとも言われています。

カニ味噌

ししとう

獅子頭



「獅子頭」とは「大きな肉団子」のことで、揚州市で古くから伝わる料理の1つです。土鍋に入った肉団子が獅子の頭に見えたことから、この名が付いたと言われています。言い伝えによると、獅子頭の誕生は、隋の煬帝（ようてい）と関係があるということです。

有名な点心



サンティンパオズ 三丁包子 (肉まん)

揚州の肉まんは生地が発酵と餡の繊細さがポイントであり、生地の表面は白く、きめ細かく美しいものが良いとされます。三丁包子は、さいの目に切った鶏肉と豚肉、筍で餡を作ります。それぞれの粒は、素材本来の触^{ノオゾンヂイフアオ}感を残し、味は溶け合って雑味がなく、脂っこさ也没有せん。「包中之宝」（肉まん界の宝）に相応しいものです。

チエンツァンユウガアオ

千層油糕（蒸しパン）



揚州点心の代表格で、油と砂糖が層になっ^{こう}ており、ひし形に切り出され、表面に少し紅^{りよくし}緑絲（蜜柑の皮などをシロップや着色料に浸して乾燥させ、細かく切ったもの）をトッピングしたもので、触感はフワフワとして甘く、各層の味がはっきりしています。

フェイツェイシアオマアイ

翡翠焼売

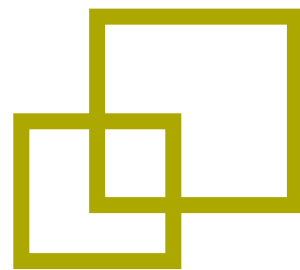


千層油糕と共に揚州点心の双璧と称されています。菊花状の皮に青菜の餡を包み、形はザクロのような形をしています。底は銅銭のように楕円で、突出した先端は蓮のがくに似ており、ヒスイのような色をしています。飾りとしてハムをのせ、見た目が美しく、すっきりとしたおいしさです。

揚州市の伝統工芸

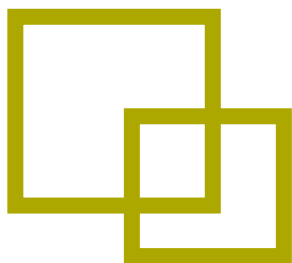


揚州玉器



平成16年（2004年）に彫刻が完成した後、この作品は第5回中国芸術工芸マスターズ博覧会で特別賞を受賞し、上海万博でも展示されると、江蘇パビリオンで最も人気のある展示物の1つになりました。

揚州漆器



商周時代から明清時代にかけて中国漆器は発展を続け、北京市・江蘇省・揚州・上海市・重慶市・福建省などの漆器が有名で、地方によって異なる特色を持っています。揚州の漆器は表面に貝殻を埋め込んで、螺鈿細工（らでんざいく）を施しているため非常に美しいです。この揚州漆器と北京の堆朱（ついしゅ）、福建省の脱胎漆器（だったいしっき）が中国の伝統的な工芸の「三宝」といわれます。



運河三湾観光エリア

奈良市ホームページ
揚州市紹介ページはこちら

<https://www.city.nara.lg.jp/site/kankou/8774.html>



揚州市の紹介動画やパンフレットもお楽しみいただけます。

奈良市役所 観光戦略課（0742-34-4739）

制作：令和2年7月